

就任ご挨拶

沖縄及び北方対策担当大臣

小池 百合子



このたび、沖縄及び北方対策担当大臣に就任しました。沖縄が新たな発展の基礎を築いていく重要な時期に担当大臣に就任したことは、大変光栄であり、また、その責任の重さに身の引き締まる思いがします。

沖縄が本土に復帰して以来、政府は三次にわたる振興開発計画を策定し、社会資本の整備を中心に本土との格差是正に努めてきました。その結果、県民各位の御努力と相まって、沖縄は着実に発展を遂げてきました。一方で、今日なお沖縄の社会経済は厳しい状況にあり、自立型経済の構築に向けた一層の取組が極めて重要です。沖縄の更なる発展に向けて、沖縄振興特別措置法、沖縄振興計画に沿って観光、情報通信、農林水産業等の各種産業の一層の振興、それを支える人材の育成や科学技術の振興など、地元と一体となって積極的に取り組んでいきます。また、離島それぞれの特徴

を活かし、その振興が図られるよう、地元の取組をバックアップしていきたいと考えています。さらに、沖縄の美しい自然は、沖縄振興においても貴重な資源であり、その保全と活用に十分配慮し、環境と経済の統合に努めたいと思います。

最近の沖縄は明るい話題がたくさんあります。全国ネットでも沖縄を取り上げた番組が数多く放送されていることや、芸能やスポーツなど各分野で沖縄の若者の活躍などにより、沖縄の文化、物産、島々の魅力が全国に知られるようになりました。その魅力を求めて、昨年は五百万人を超える観光客が沖縄を訪れ、今年も昨年を上回る勢いと聞いています。情報通信産業は、平成八年から現在に至るまで、沖縄において約八十社のIT企業が新規立地し、七千三百人を超える新規雇用が創出されています。ウコンの粒の加工、もろみ酢の製造といった健康バイオ産業は、過去七年間で産業規模が五倍を上回る増を示し、新しい基幹産業として発展する可能性が見えてきました。農林水産業についても、ゴーヤー、ウコン、モズクなどの沖縄県産品への関心の高まりには目を見張るものがあります。このような明るい兆しをより確かなものにするためにも、今後、ますます沖縄の特性や優位性を最大限に発揮していくことが重要だと思えます。

沖縄科学技術大学院大学（仮称）設立構想は、沖縄の地理的優位性や地域特性を活かした今後の沖縄振興の目玉となる大変重要なプロジェクトです。構想の推進に当たっては、これまで、関係閣僚による会合や「ボード・オブ・ガバナース会合」

を開催するなど、関係省や世界的に著名な科学者たちと一体となって取り組んできています。今後は、大学設置までの間に沖縄の研究基盤の整備等を行う法人を来年度中に設立するなど大学院大学の開学に向け一層の条件整備を進めたいと考えています。

また、沖縄における米軍の存在は、我が国の安全及びアジア・太平洋地域の平和と安定に貢献する一方で、在日米軍施設・区域の七十五%が集中しており、県民の皆様には大きな御負担をおかけしています。私も就任直後に沖縄を訪問し、先般の米軍ヘリ墜落事故の現場、普天間飛行場等の視察を行い、県民の皆様への御負担を肌で感じています。在日米軍施設・区域の整理・統合・縮小に向け、SACO最終報告の着実な実施を図るなど、県民の皆様への御負担を軽減できるよう、誠心誠意取り組んでいきます。特に、市街地にある普天間飛行場については、一日も早い移設・返還に向けて、平成十一年の閣議決定等に基づき、環境の保全にも配慮しながら、沖縄にとってよい方向に向かうよう全力で取り組んでいくことが必要であると考えています。

私は環境大臣としての立場を兼ねることになりますが、これまでの施策に“環境”の観点を加味しつつ、バランスをしっかりととりながら、県民の皆様への思いを一步一步実現していくことが、自らの責務であると考えています。夢のある沖縄の実現に向けて、常に現場主義で精一杯努力していきたくと思います。